

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア(株)		
事業所名	グループホーム虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3番14号		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502546-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期まで安心して生活をまた、楽しいと思えるような日々を送って頂けるよう、画一的なケアだけではなく個々のペースに合わせたゆったりとアットホームな雰囲気をお大切にしながら支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な環境を大事にする1ユニットのグループホームである。建物は2階建てで、2階の共用空間は天井の一部が吹き抜けで天窓があり、窓のある浴室や車椅子対応のトイレ、洗面所、エレベーターが設置されるなど設備が整っている。2階の和室部分に昔懐かしい家具が置かれ、柱時計や古いポスターも飾られている。居室にも馴染みの家具やテレビなどが持ち込まれ、壁にはカレンダーや家族の写りが飾られ、安心できる場所となっている。管理者が昨年度は区の管理者会議の代表を務め、今年度も副代表を務めるなど行政との協力関係を築いている。家族の意見を反映させるために、家族が来訪した際は管理者や職員が意見や要望を聞きスタッフノート等に記録し全員で共有している他、毎月の支払いを現金支払いとし、来訪した際に意見を聞いている。道外の家族には、電話で意見を聞き、年間行事にも参加を待っている。職員の意見も運営に反映させるために食材や備品、お便り、防災等を職員に管理させている。担当はあるが全員が協力してサポートする体制としている。利用者全員が協力医療機関で月2回の往診を受け、月4回の訪問看護も受けられるので利用者・家族の医療面での安心感は強い。災害対策では、消防署の協力を得た夜間対応の避難訓練と昼間対応の自主訓練を行っているが、自主訓練では町内会長や近隣住民の参加があり、参加者全員によるマットレスでの避難誘導の実演を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの利用者様を支えていくことを掲げ、2階の共用空間に理念を掲示している。	地域密着を踏まえた事業所のケア理念をパンフレットに掲載し、その他に独自の虹の家理念を作成し、共用スペースに掲示している。職員は申し送りの時に全員で唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には挨拶をし、町内会の行事には出席させて頂いている。また、ホームの避難訓練、クリスマス会には有志の方々が参加して下さっている。	町内会の新年会や文化祭に利用者も参加し、事業所主催のクリスマス会には町内会役員等を招待している。日々の散歩では庭の花を写真に撮らせてもらっている。野菜の提供を受けることもある。また、地域の小学校と交流できるように声かけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームをより理解して頂く為にも見学は随時、いつでも受け入れてホーム以外のサービスについても説明をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、行事報告や状況などを報告し、構成員の方々より意見や要望を頂きサービス向上に活かせるよう努力している。	会議では、町内会長や老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、利用者・家族等が参加して意見交換している。会議のテーマは特に決めていないが意見が多く予定時間では不足気味である。議事録は全家族宛に送付している。現在、民生委員にも会議への参加を依頼している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書類等について直接または電話等で相談していた。また、生活保護の方は担当職員と綿密に連絡を取り合っている。	区の担当者を定期的に訪問している。また、分からないことがあれば市の担当者に電話で相談している。管理者が昨年度は区の管理者会議の代表を務めており、今年度も副代表を務めるなど行政との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。外部の研修会にも参加して拘束をしないケアに努めている。	前回の外部評価の取り組み事項である身体拘束についての「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の勉強会については、11項目の具体的な行為の用紙を職員の作業台の目につく場所に置き、内容について話し合い理解を深めている。玄関は日中は施錠せず、センサーで人の出入りを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に最低1回は外部の研修会に参加し、権利擁護の視点から虐待防止に努めている。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人がいる入居者様もおり、外部の研修等で講義を受けたものはカンファレンス等で報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安や疑問、理解しかねていることがあるような場合は十分説明し、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置している。実際には直接管理者と話すことが多く、スタッフとも気軽に話し合っている。	家族が来訪した際は意見や要望を聞きスタッフノート等に記録し全員で共有している。また、毎月の支払いを原則現金支払いとし、その際にも意見を聞いている。道外の家族には、電話で意見を聞き、年間行事に参加を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を総務部長等に伝え、運営に反映するようにしている。	毎月1回のカンファレンスに、職員は活発に意見交換している。備品等は職員の意見を取り入れて購入している。また、食材や備品、お便り、防災等は担当者は決めているが、全員が協力してサポートする体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に取り組めるように支援している。また、労働時間も変更され短時間になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の計画で外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が区、市の管理者連絡会に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や要望を伺い、不安に思っている事に耳を傾け安心の確保につなげる。しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、これまで困っていた事、今後の不安などをしっかり伺い、どうあってほしいかという要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームで出来ること、他のサービス利用が望ましいのかを説明しご理解を得るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に様々な作業を行うことにより、共に生活している事を実感し、毎日を楽しく過せるように共に笑い、共に学び日々を暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時には、ご本人の普段の状況をお話している。ご本人が喜んだり楽しそうにしていたことばかりではなく、困って事なども普段の様子としてお話をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みである友人、家族、職員の関係が途切れないように働きかけている。	宗教関係の方の訪問がある利用者があり、居室でお茶を飲みながら話をしてもらっている。また、元近所に住んでいた方の訪問がある高齢の利用者には、職員が付き添って、会話等をサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレク、行事等に参加して頂き、楽しみを共有して頂いている。ソファ周辺で歌を聞いたり、テレビを見たりといつも話し相手がいる事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へお見舞いに行き、様子を伺ったり、亡くなった利用者様の家族に対して最後まで支援させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	利用開始時に、家族等から得た情報を元に「心身の情報」シートに記録している。その後は「個人記録表」に利用者の思いや意向を記録している。記録を参考に、利用者の表情や態度を観察して思いや希望を把握するようにしている。	利用開始時の情報である「心身の情報」シートの定期的な見直しを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活暦等の話を聞いた際、記録に残して情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は24時間チェックシートと個人記録に記録し、職員全員が利用者様一人ひとりどう過ごされているか把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時やケアカンファレンス等でモニタリングを行い、意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	基本的に3か月に1度介護計画を更新している。見直し時期にカンファレンスでモニタリングして計画を見直しているが、状況が変化した場合は期間内でも見直している。「24時間チェック表」や「個人記録」等の日々の記録も介護計画を意識しながら記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々の声掛けの仕方など個人記録に書き情報を共有し、介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員を増やし、一人ひとりのニーズに応じていける様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回、消防署員指導による消防訓練を行い、地域の方にも協力して頂きながら地域で安全に暮らし頂く支援をさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、月4回の訪問看護によって健康管理がされている他、体調に変化があった時には、その都度主治医に報告し、指示を頂き、必要があれば他医療機関に受診もしている。	利用者は希望のかかりつけ医を選択できるが、現在は全員が、協力医療機関で月2回の往診を受けている。訪問看護もあるので利用者・家族の医療面での安心感は強い。医療情報は「医療ノート」等で全職員が共有している。	

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護により相談などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をし、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院できるように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	100才になった方がおり、今後の方向を話し合っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を本人・家族に説明し、実際に重度化した場合は「あなたはどうしたいですか？」の用紙の記入を受け、希望を把握している。また、「話し合いの記録」も作成して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。また、救命救急法の講習も受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の役割分担・連絡先を明記して掲示している。避難場所として近くの公園だけでなく、町内会館を利用して頂けるようにしている。年2回避難・消防訓練を行っている。	消防署の協力を得た夜間対応の避難訓練と昼間対応の自主訓練を行っており、町内会長や近所の方の参加を得ている。定期的な救急救命訓練も行い、災害時の備品も用意している。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには職員全員が意識をしながら行っている。個人記録も頭文字で記入している。	利用者への呼びかけは名字に「さん」づけとし、対応が丁寧な職員を参考にして言葉かけや対応等を学んでいる。個人記録はスタッフルームで行い、ファイル類は扉のついた棚で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択して頂く等の工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに添えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応が出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや朝のブラッシングなど身だしなみに気持ちが悪く声掛けを行い、コミュニケーションを取りながら選んで頂いたり介助をしたりしている。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮してメニューを考えたり、料理の下ごしらえや茶碗洗いなどで利用者様が一緒に活動できるように、お一人お一人に合わせた働きかけをしている。	献立は食材会社によるものだが、利用者の好みに応じて変更している。野菜の皮むきや下膳などを利用者が手伝っている。職員も同じ食事だが、現在は、介助の関係で一緒に食事をしているのは1名である。行事の帰りに外食を行う機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望やその場の雰囲気によりコーヒーや紅茶、ココアなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない方には介助により、又ご自分で出来る方には声掛けにより行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パット利用の方、車椅子の方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせて声掛けトイレ誘導させて頂いている。	自力でトイレに行ける方は少なく、全員の「24時間チェック表」で個々の排泄パターンを把握し、誘導が必要な方はプライバシーに配慮しながらさりげなく誘導している。夜間は睡眠を優先してベッドでオムツやパッドを交換する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の行為を忘れていたり、腹部の痛みや違和感に鈍くなったりされている方々には食事や運動、座薬などで対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番などなるべくご希望に合わせて入浴ができるようにしている。又体調に合わせてシャワー浴等になっている。	日曜日以外の午後の時間帯で、各利用者が週2回の入浴を行っている。拒否がある方の場合も翌日にずらすことで入浴できている。職員と会話を楽しんで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方でも、確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理手伝い・食器洗い・掃除・洗濯物たたみなど、出来ることを見つけて役割を持っていただくよう支援している。		

グループホーム虹の家 白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望もしくは声掛けでスーパーやコンビニなどへ買い物に出かけたり、天気の良い日は散歩に出たりしている。	日常的に近所の公園や河原、周辺の住宅地を散歩したり、スーパーやコンビニエンスストアへの買い物に出かけている。年間行事では、花見や紅葉見学、雪まつり見学などに全員で出かけ、帰りに外食も行っている。冬は外出が減るが、玄関先で外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や散歩の時には買い物ができるように支援させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の事情を考慮の上希望があれば対応している。年賀状を書く手伝いをしたり、家族からの手紙を手渡し、行き来を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車椅子の方も安心して過して頂けるようになっている。日当たりの良い居間にはソファや畳、ピアノがありくつろげる空間を作っている。季節ごとの飾りつけも工夫している。	2階の共用空間は天井の一部が吹き抜けで天窓があり、光が差し込んでいる。和室の部分に昔ながらの家具や調度品が置かれ、柱時計や古いポスターも飾られている。ピアノや将棋盤なども置かれ、家庭的な雰囲気である。浴室やトイレ、洗面所、エレベーターなどを使いやすく整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間にソファを設置して、利用者様の好きな空間で過して頂いている。居間のソファに座り、数人でテレビを見たり、洗濯物を片付けたり自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時には、以前から使用されていた物や愛着のある物を持参して頂いている。又、配置はご本人の落ち着けるようお話しながら行っている。	居室には馴染みの家具やテレビなどが自由に持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや家族の写真などを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用エレベーターがあり下りた時にどこかが分かるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。又、各お部屋には表札を付けてご自分のお部屋を分かるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム虹の家 白石

作成日：平成 26年 12月 17日

市町村受理日：平成 26年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用開始時の情報である「心身の情報」シートの定期的な見直しが記載されていない。	定期的な見直しを行うとともに、見直し時期が解るようにする。	センター方式のシートを活用しながら変化の経過が解るような工夫をしていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。